

2024年度 事業計画



2024年度の事業取組み

事業方針

- 国内線におけるコロナマインドの払しょくと国際線の増便・新規就航ニーズの高まりを踏まえ、コロナ前を上回る旅客需要を目標に設定します。
- 当面の需要急増と将来的なさらなる需要伸長を見据え、空港のハード・ソフト両面での受入れ環境整備を加速します。
- 物価等の上昇に対応しつつ、持続的に利便性及びサービスレベル向上を図るため、諸料金体系のアップデートを進めて参ります。
- 安心・安全の空港運営を行うとともに、着実な更新投資を継続することで、社会インフラとしての機能維持・向上に努めて参ります。

目標旅客数

	2024年度目標	【参考】 2019年度
旅客数	205 万人	202 万人
国内	165 万人	173 万人
国際	40 万人	29 万人

主要計数項目 ※1

項目	2024年度想定 (単位:百万円)
営業収益	2,467
空港運営事業	810
ビル施設事業	1,654
営業費用 (うち、減価償却費)	2,372 (713)
内 空港運営事業	1,110
内 ビル施設事業	1,255
営業利益	▲506
当期純利益	▲545

※1 上記事業計画は、目標旅客数を前提として作成しております。



2024年度の具体取組み

✈️ 受入環境整備

- 旅客需要増加を見据えたターミナルビル等の大規模リニューアルに向けた検討・準備の着手
- 航空会社、グランドハンドリング、保安検査を始めとする空港事業者様にとっての働きやすい環境づくり

✈️ エアラインマーケティング

- パートナーシップ協定に基づく自治体と連携した既存路線の回復及び新規路線誘致施策の継続（特に東アジア・東南アジアを重点営業エリアに設定）
- 国内チャーター便の誘致強化によるインバウンド・アウトバウンド双方での観光交流とプロモーション促進（北海道、東北、下地島等）

✈️ 利便性と魅力向上と料金体系見直し

- 空港開設35周年の節目にふさわしい魅力ある空間づくりとイベントの実施（2025年度の瀬戸内国際芸術祭・大阪万博も視野に）
- 物価上昇や利用者増加を踏まえた適切な価格反映推進による空港経営の安定化

✈️ 設備投資計画と安全安心な空港運営

- 空港運営上必要な設備更新・修繕等の着実な実施

運営権施設への更新投資

- 総額 約10億円
内容 航空保安施設等に関する設備更新

非運営権施設への整備投資

- 総額 約4億円
内容 旅客ビル施設等に関する修繕・更新

